



Modeling Guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 日本語版

モデリング操作ガイド(ユースケース図編)

(2018/05/16 最終更新)



1. はじめに

このモデリング操作ガイドでは、個別の図や機能について、Enterprise Architect の機能の紹介や操作方法について説明します。モデリング操作ガイドは、以下のように内容ごとに分かれています。

- ・ 共通操作編
- ・ クラス図・オブジェクト図編
- ・ ユースケース編
- ・ アクティビティ図編
- ・ シーケンス図・コミュニケーション図編
- ・ ステートマシン図編
- ・ コンポーネント図編
- ・ データベースモデリング編

本ドキュメントをご覧になる前に、「モデリング操作ガイド 共通操作編」をご覧ください。共通操作編で紹介されている内容は省略いたします。

なお、このドキュメントでは、UML の仕様・文法・記述方法についての説明はすべて省略しています。別途 UML について紹介している書籍などをご利用ください。

また、本ドキュメントは、ドキュメント執筆時の最新版を利用して作成されています。そのため、それ以降のバージョンで画面構成や機能が多少変更になっている可能性もあります。相違点や不明な点がございましたら、サポート担当 support@sparxsystems.jp にご連絡ください。

2. ユースケース図

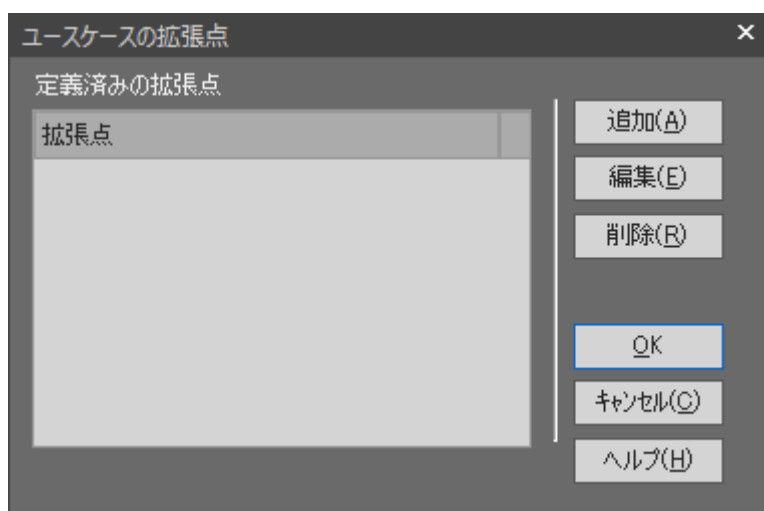
ユースケース図は、対象のシステム(製品)が提供する機能と、その機能に関する外部システムや利用者との関係を表現します。このドキュメントでは、このユースケース図に固有のいくつかの操作について説明します。要素をダイアグラム内に配置する操作や要素間を接続する操作は、「モデリング操作ガイド 共通操作編」をご覧ください。

3. ユースケース図でのモデリング

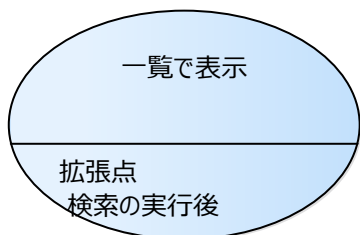
この章では、ユースケース図固有のモデリングの操作について紹介いたします。

3.1. 拡張点の定義

ユースケースに拡張点を作成したり、あるいは作成済みの拡張点の編集・削除をしたりする場合には、対象のユースケースを選択して、右クリックのコンテキストメニューから「追加設定」→「拡張点の定義と編集」を選択します。設定画面が表示されますので、「追加」ボタンを押し、文字列で拡張点の内容を入力してください。

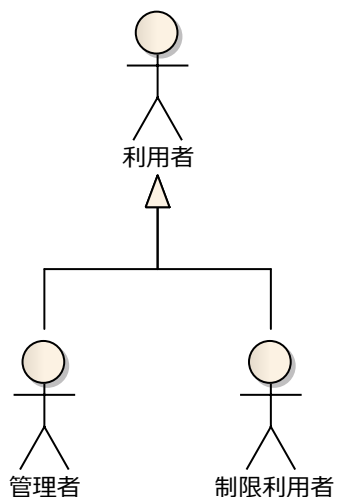


定義した結果は、ダイアグラム内で次のように表示されます。




3.2. 汎化関係の形

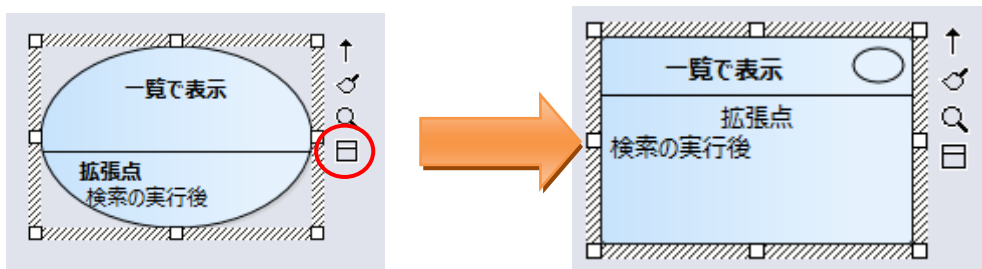
アクター間には、以下のように汎化の関係を定義することがあります。汎化を作成すると、既定値では作成後は直線で結ばれます。この直線をツリースタイル(木構造)にすることができます。具体的な操作については、「共通操作編」をご覧ください。



3.3. ユースケース要素を四角形で表示

ユースケース要素には、属性や操作を追加することもできます。属性や操作を追加することで、そのユースケースの詳細情報を示すことができます。

ただし、追加した情報はそのままでは表示されません。表示する場合には、対象のユースケース要素を右クリックして「追加設定」→「四角形で表示」を実行します。あるいは、要素を選択した際に右側に表示される  アイコンをクリックすると、以下のようにクラスと同じ形で表示されます。この際に、右上にはユースケース要素であることを示す楕円のアイコンが表示されます。

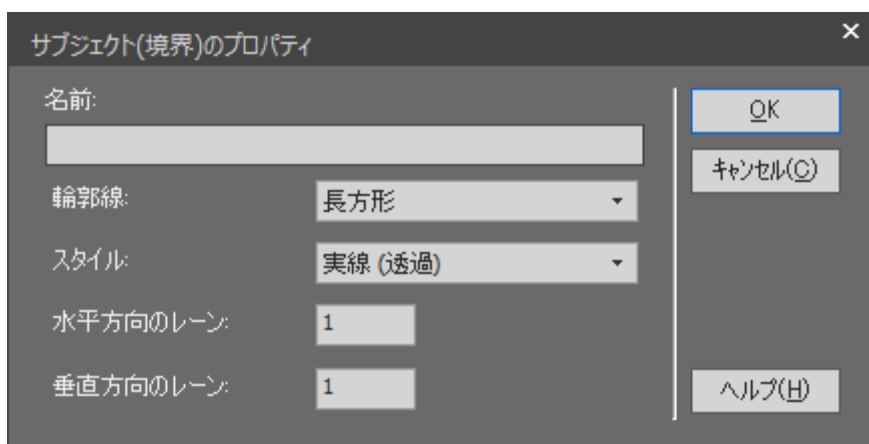


再度同じ操作を実行することで、楕円表示に戻すことができます。

3.4. サブジェクト(境界)要素の作成

システムの範囲を示すサブジェクト(境界)は、「ユースケース 要素」グループや「共通」グループのツールボックスから作成できます。

サブジェクトをダブルクリックすると、プロパティ画面が表示されます。ここで、名前とスタイルを設定することができます。



4. ユースケース図での便利なテクニック・機能

4.1. ユースケース記述

ユースケース図の作成では、それぞれのユースケースがどのような振る舞いや制約を持つつかを示すための「ユースケース記述」(ユースケースシナリオ)と呼ばれる内容が必要です。Enterprise Architect の場合には、このユースケース記述を以下の 4 通りの方法で作成する

ことができます。

- プロパティ画面のシナリオタブを利用する
- Word や Excel など記述し、プロパティ画面のファイルタブで要素とリンクする
- アクティビティ図を利用する
- 付属ドキュメントを利用する

これらの4つの方法の詳細は、以下のページをご覧ください。

<https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/UCScenario.htm>

4.2. ユースケース測定

Enterprise Architect には「ユースケースポイント」と呼ばれる評価方法を利用した工数の見積もり機能があります。このユースケースポイント理論についての詳細は本チュートリアルでは触れませんが、基本的には名前のおりそれぞれのユースケースに対して複雑度の評価を行い、その評価内容と対象のシステム全体の複雑度を元に工数を予測するものです。

この予測される工数は、それぞれのユースケースに対する複雑度の評価によって結果が大きく変わります。一般的には、複数の開発済みのシステムに対してユースケースポイントによる工数の見積もりを行い、その値と実際にかかった工数を比較することで、複雑度の指定方法やシステム全体の複雑度の決定方法を決めていきます。この決められた値やルールが適切であれば、これから開発を行うシステムに対しても、ある程度の精度で工数を見積もることができる、というわけです。

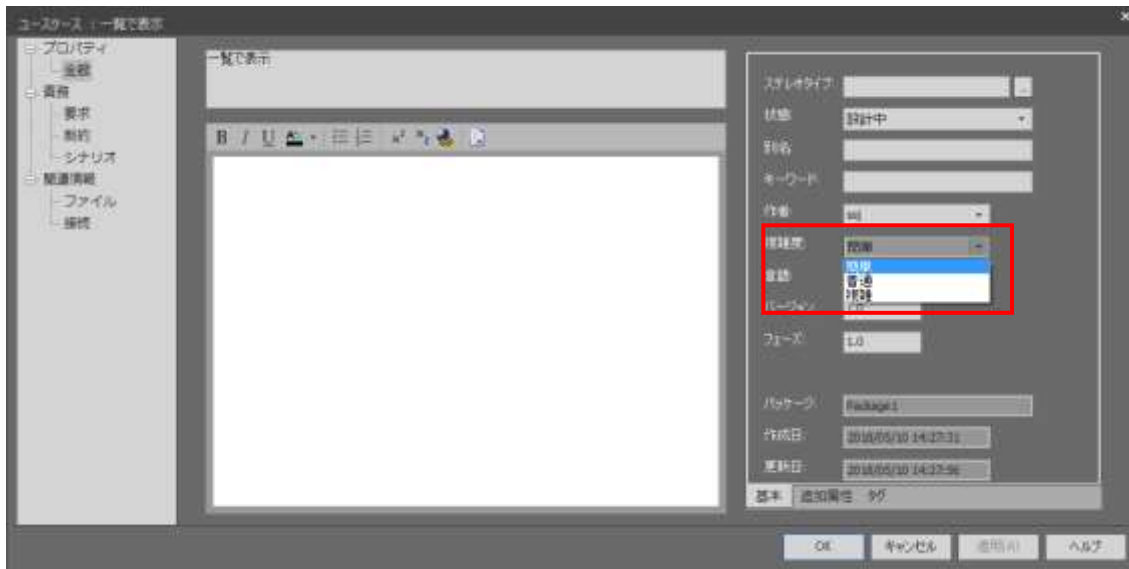
つまり、ユースケースポイント法では未知のシステム開発に最初から工数を見積もることはできません。検証対象のシステム開発が多ければ多いほど、より精度の高い見積もりを出すことができるようになるでしょう。ここで導き出されたそれぞれの値やルールは、そのシステム開発の部署における財産と言えるのかもしれませんが。

この章では、ユースケースに対して複雑度を設定する方法と、工数を見積もる方法を説明します。

4.3. ユースケースへの設定

まず、ユースケースに対して複雑度を指定します。複雑度の指定は、ユースケースのプ

ロパティ画面から行うことができます。



ここでは、「簡単」「普通」「複雑」の3種類から選択することができます。これらの種類の定義はユースケース測定の定義に含まれますので、その内容を元に設定して下さい。

このようにして、対象の全てのユースケースに対して複雑度を設定してください。

4.4. その他の設定

工数の見積もりにおいて、複雑度以外の要素として次のパラメータを設定する必要があります。

- 技術的因数(TCF)
- 環境的因数(ECF)
- 作業効率

これらの値については、「プロジェクト」リボン内の「リファレンス情報」パネルにある「既定値」ボタンを押すと表示されるメニューから「ユースケース測定」から設定することができます。

例えば、技術的因数の場合には次のような画面になります。原則的には、「重み」は固定の値であり、そのシステムごとの相対的な評価を「値」として入力します。



これらの値の定義(意味)はユースケース測定の定義に含まれますので、その内容を元に設定して下さい。

これらの技術的因数・環境的因数と作業効率を設定すれば、測定の準備は完了となります。

4.5. 測定

実際に測定を行うためには、対象のパッケージをプロジェクトブラウザから指定して、「設計支援」リボン内の「プロジェクト」パネルにある「ユースケース測定」ボタンを押して「QA レポート」タブを表示します。「ユースケース測定」タブは次のような画面です。

テストの詳細 保守の詳細 依存関係の詳細 実装の詳細 ユースケース測定

ユースケース

選択パッケージ: 再読み込み(L)

フェーズ: ブックマーク:

キーワード: ユースケース: アクターを含む

パッケージ	名前	種類	複雑度	フェーズ
サンプル	検索	ユース...	5	1.0
サンプル	出力	ユース...	5	1.0
サンプル	表示	ユース...	5	1.0

技術的因数

未補正TCF値 (UTV):

TCF重み因数 (TWF):

TCF定数 (TC):

TCF = TC + (TWF × UTV):

環境的因数

未補正ECF値 (UEV):

ECF重み因数 (EWF):

ECF定数 (EC):

ECF = EC + (EWF × UEV):

未補正ユースケース値(UUCP) = 複雑度の合計 ユースケースごとの平均時間 簡単: 40 普通: 80 複雑: 120

見積りの合計

ユースケース値(UCP) = UUCP * TCF * ECF = * * = UCP

予測作業量(EWE) = * = 時間

予測コスト = EWE * 作業効率 = * = ポイント

再計算(R)
レポート生成(O)
レポート表示(V)
既定の作業効率
ヘルプ(H)

この画面の右下には、既に見積りの作業工数が計算されています。この例では、120時間となっています。このように、今までの設定を行っておけば、この画面を呼び出すだけで自動的に見積りが計算されます。逆を言えば、設定項目とユースケースの複雑度で見積りが測定されるので、それぞれの設定項目の決め方によっては意味のない数値になるということになります。

なお、ユースケースに「フェーズ」「キーワード」を指定することで、絞り込みをすることもできます。これらの項目はユースケースのプロパティから指定できます。例えば、フェーズの既定値は1.0ですが、二次追加開発を2.0として対応するユースケースのフェーズを変えておくことで、フェーズごとの見積りを行うこともできます。

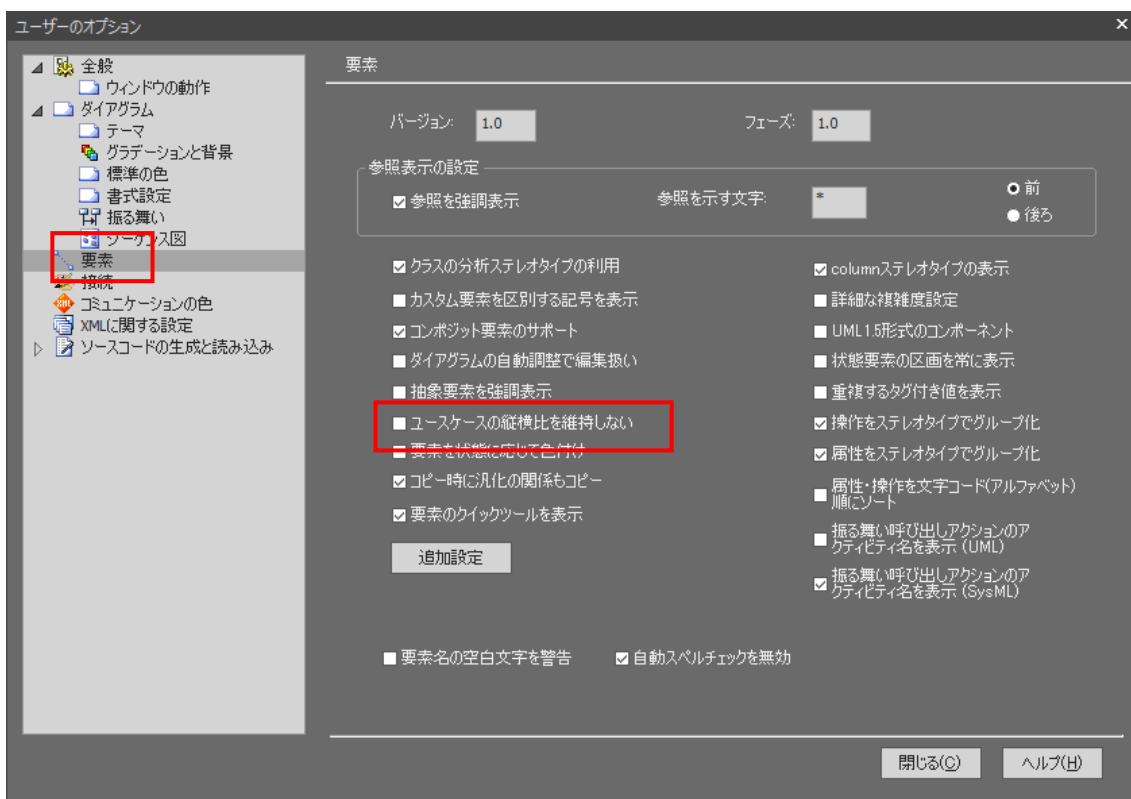
また、同じく絞り込みに利用できるブックマークとは、次の図のように要素の上の赤い三角形を示します。このブックマークを設定するには、ダイアグラム内の要素が選択された状態で **Shift+Space** キーで設定・解除できます。いくつかの特定のユースケースだけを対象にしたい場合には、あらかじめこのブックマークを設定しておいて、絞り込みの条件に利用すると良いでしょう。



なお、条件を変更した後は、「再読込」ボタンを押して一覧を更新してください。見積もり結果も自動的に更新されます。

5. ユースケース図に関連する設定

ユースケース図に関連する設定は、次の項目があります。ユーザーのオプション画面を表示するには、「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「ユーザー」ボタンを押して下さい。「要素」グループを選択します。



- ・ ユースケースの縦横比を維持しない

この項目にチェックを入れると、横長のユースケース要素を作成することができます。
チェックが入っていない状態では、縦横比は常に一定になります。

○ 改版履歴

2009/09/01 初版(過去のチュートリアルを再構成し、加筆)

2010/04/16 Enterprise Architect8.0 のリリースに伴い、内容を更新。

2011/05/18 Enterprise Architect9.0 のリリースに伴い、内容を更新。

2011/11/28 Enterprise Architect9.2 のリリースに伴い、内容を更新。

2012/12/14 Enterprise Architect10.0 のリリースに伴い、内容を更新。

2015/02/12 Enterprise Architect12.0 のリリースに伴い、内容を更新。

2016/10/07 Enterprise Architect13.0 のリリースに伴い、内容を更新。

2018/05/16 Enterprise Architect14.0 のリリースに伴い、内容を更新。